

# 諏訪の 景気動向

2024  
5月

(2024年4月末D・I調査)

製造業 p2  
自動車関連が回復へ

商業 p4  
値上げで売上増も節約意識上昇

観光・サービス業 p5  
各観光地で来場者が大幅増

建設業 p6  
資材高騰の影響続く

今月のコラム  
乱高下する円相場の見通し



本誌の電子版はこちらから▲

## CONTENTS

概況	1
製造業	2
製造業 受注状況	3
商業	4
観光・サービス業	5
建設業	6
収益性状況	7
雇用状況	8
経営上の課題	8
諏訪地方主要経済指標	8
2024年4月の状況	9
● 材料・電気等コスト	9
● 価格転嫁	9
● 賃金	10
● 自社の業況	10
● 収益性	11
● 労働力 (パート含む)	11
回答全社：業況判断DIの推移	12
調査概要	12
コラム「乱高下する円相場の見通し」	13

## お天気マーク（調査月から見た状況）



3ヵ月前（観光・サービス業は前年同期）に比べ、回答全社が10ポイント以上好転したか、3ヵ月前に好転して横ばいの時。



回答全社は好転しているものの、業種によって悪化企業もある時。



3ヵ月前（観光・サービス業は前年同期）に比べ、回答全社が0～9ポイントの好転または悪化か、3ヵ月前も同様で横這いの時。



回答全社が悪化しているものの、業種によって好転企業もある時。



3ヵ月前（観光・サービス業は前年同期）に比べ、回答全社が10ポイント以上悪化したか、3ヵ月前に悪化して横這いの時。

# 概況

## 2024年4月アンケート調査および 企業訪問ヒアリング調査による取りまとめ

諏訪地方154社のご協力で行った2024年4月の「景気動向調査 (DI調査)」は、回答全社の「3ヵ月前」と比べた業況判断DIが3.3で、前回調査時 (2024年1月末、以下同) の△31.0から、**34.3ポイント改善**した。「3ヵ月前」と比べた製造業の業況判断DIは△2.9で、前回の△29.6から改善した。また、非製造業 (商業、観光・サービス業、建設業) の同DIも15.3で、前回の△33.8から改善し、**プラス水準**となった。「3ヵ月後」の業況予想DIは、製造業が前回の8.7から12.8へ改善したが、非製造業は△5.8で前回の1.6から悪化し、回答全社では6.5 (前回6.2) となった。新型コロナウイルスの感染法上の分類が5類に移

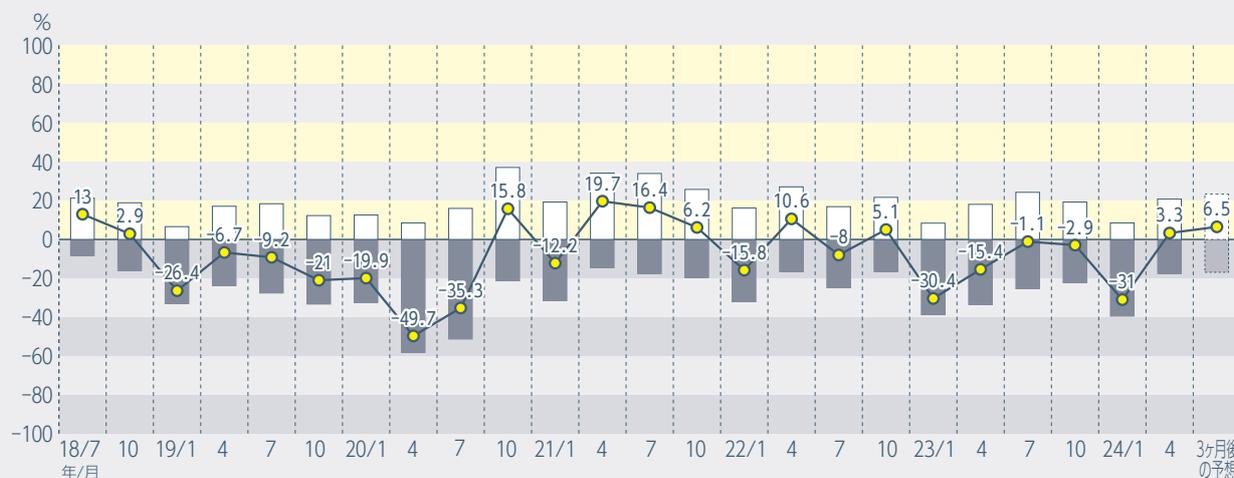
行して、約1年が経過した。行動制限がなくなり、諏訪地方では宿泊施設の稼働率が上がり、**訪日外国人が増加**している。また、各地のイベントが復活し、商業も回復基調となった。一方、製造業は円安の影響などで急回復した大手企業の波及効果は及んでいないが、先行きには明るさも見られる。建設業も資材高騰の中で企業努力が続いている。

地域経済全体では、新型コロナウイルスの影響が薄れる一方で、原材料やエネルギー価格上昇に伴う**物価高騰が多くの分野の重荷**となっている。また、急速な回復への動きで露呈した**人手不足も深刻な課題**となっている。

### ●産業別業況表

	3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
全 体	154	20.8	61.7	17.5	3.3	154	15.6	49.4	35.1	-19.5	154	23.4	59.7	16.9	6.5
製 造 業	102	16.7	63.7	19.6	-2.9	102	13.7	45.1	41.2	-27.5	102	27.5	57.8	14.7	12.8
非 製 造 業	52	28.8	57.7	13.5	15.3	52	19.2	57.7	23.1	-3.9	52	15.4	63.5	21.2	-5.8
商 業	19	47.4	42.1	10.5	36.9	19	21.1	57.9	21.1	0.0	19	21.1	52.6	26.3	-5.2
建 設 業	20	5.0	80.0	15.0	-10.0	20	5.0	65.0	30.0	-25.0	20	5.0	75.0	20.0	-15.0
観光・サービス業	13	38.5	46.2	15.4	23.1	13	38.5	46.2	15.4	23.1	13	23.1	61.5	15.4	7.7

### ●回答全社：「3ヵ月前」と比べた業況判断DIの推移





## 3ヵ月前との比較

「好転」企業は前回の8.7%から16.7%へ増加し、「悪化」企業が38.3%から19.6%に減少した。材料やエネルギーコストは41.2%（前回26.1%）が上昇し、2.9%（前回6.1%）が低下したとしている。価格転嫁は、6.9%が完了（前回11.3%）し、21.6%が転嫁不足（前回18.3%）としている。

## 3ヵ月後の予想

「好転」予想の企業は前回の22.6%から27.5%、「悪化」予想の企業も前回の13.9%から14.7%へともに増加した。材料やエネルギーコストは52.9%（前回19.1%）が上昇を予想し、2.0%（前回1.7%）が低下するとした。価格転嫁は、13.7%（前回13.9%）が完了し、15.7%（前回13.0%）が転嫁不足を予想した。

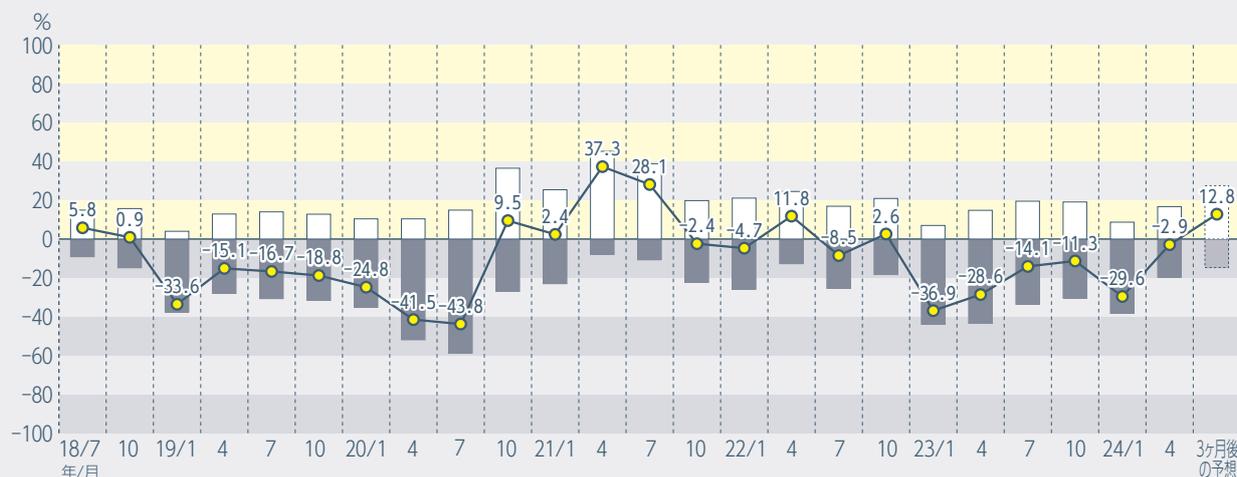
## 総体的な状況

自動車関連は、半導体不足の緩和による生産回復や円安が追い風となり、大手の2024年3月期の連結決算では、純利益が過去最高を記録する企業があり、諏訪地方の企業にも動きが見られ始めている。ダイハツ工業と豊田自動織機の認証申請不正問題の影響は、両社ともに生産および出荷を開始し、軽減されてきている。また、多くの分野で中国向けの部品加工が依然として低調で、在庫調整は徐々に改善されているものの、回復までには時間を要するという見方が多い。中国経済の回復がなければ、受注増加とはならないとする企業もある。総体的には、円安による仕入れコストの上昇が継続し、多くの企業収益に影響し重荷となっている。

## 企業のひとこと

- 電気代の補助が終了することから、光熱費の増加は避けられない。収益へも大きく影響してくるため、非常に心配（一般機械製造業）。
- 人材不足で海外研修生の確保をしたいが、円安で日本が働き先としての魅力が薄れているのではないかと。日本人が「海外に出稼ぎに行く時代」が近づいているのかもしれない（一般機械製造業）。
- ダイハツ向けは令和6年1月と2月は生産がゼロだったが、現在は30%程度に戻っている。7月には100%に戻ると言われているが、完成車の販売が不振であり、本当に戻るかはわからない（輸送機械製造業）。
- 賃上げは、人材確保の必要な要素で待ったなしだが、それ以上に仕事と業界に対する愛着が出るように、やりがいを与えることが必要。採用や教育にコストをかけ、離職されるのは痛手（輸送機械製造業）。
- 3月に導入した完全無人化の機械は、従業員の張り付きが不要であり、その分他の作業に注力できることから作業効率が格段に上がっている（電気機械製造業）。
- コンプライアンス強化の関係からか以前と違い、大手企業の「極端なコストダウン、横柄な態度」などがなくなった（精密機械製造業）。

## ●製造業：「3ヵ月前」と比べた業況判断DIの推移



# 製造業 受注状況

## 3ヵ月前との比較

受注状況DIは4.9で、前回調査時の△34.8から改善した。前回より「増加」企業が増え、「減少」企業が減った。規模別DIは、「1～29人企業」は7.4で前回の△31.2から改善し、「30～99人企業」も0.0で前回の△36.1から改善した。「100人以上企業」は6.7で前回の△46.7から改善した。業種別（主要5業種）では、「一般機械」は△23.6から0.0、「輸送用機械」が△22.2から55.6、「精密機械」は△53.8から11.1、「金属製品」が△30.8から△12.9、「電気機械」は△66.7から△13.3へ改善した。

## 3ヵ月後の予想

製造業全体の受注予想DIは13.7で、前回の9.6から改善した。規模別では「1～29人企業」が前回の14.0から11.1へやや悪化したが、「30～99人企業」は8.4から12.1へ改善、「100人以上企業」は△6.7から26.7へ改善した。業種別（主要5業種）では、「金属製品」が前回の7.7から25.8、「電気機械」は△13.3から20.0、「精密機械」は△15.4から22.2と改善し、「一般機械」は23.6から△9.6、「輸送用機械」は0.0から△11.1へ悪化した。総体的に、円安による仕入れコスト上昇への懸念が強い。

●業種別・規模別受注状況表

	3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想					
	回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI	
製造業	102	28.4	48.0	23.5	4.9	102	19.6	32.4	48.0	-28.4	102	28.4	56.9	14.7	13.7	
規模	1～29人	54	33.3	40.7	25.9	7.4	54	20.4	38.9	40.7	-20.3	54	29.6	51.9	18.5	11.1
	30～99人	33	24.2	51.5	24.2	0.0	33	15.2	21.2	63.6	-48.4	33	21.2	69.7	9.1	12.1
	100人～	15	20.0	66.7	13.3	6.7	15	26.7	33.3	40.0	-13.3	15	40.0	46.7	13.3	26.7
分類	金属製品製造業	31	19.4	48.4	32.3	-12.9	31	12.9	32.3	54.8	-41.9	31	32.3	61.3	6.5	25.8
	一般機械製造業	21	28.6	42.9	28.6	0.0	21	14.3	42.9	42.9	-28.6	21	19.0	52.4	28.6	-9.6
	電気機械器具製造業	15	6.7	73.3	20.0	-13.3	15	6.7	26.7	66.7	-60.0	15	33.3	53.3	13.3	20.0
	輸送用機械器具製造業	9	55.6	44.4	0.0	55.6	9	44.4	11.1	44.4	0.0	9	33.3	22.2	44.4	-11.1
	精密機械器具製造業	9	22.2	66.7	11.1	11.1	9	33.3	0.0	66.7	-33.4	9	22.2	77.8	0.0	22.2
	上記以外	16	50.0	25.0	25.0	25.0	16	31.3	50.0	18.8	12.5	16	31.3	62.5	6.3	25.0

●製造業：「3ヵ月前」と比べた受注状況DIの推移





## 3カ月前との比較

業況判断DIは36.9で、前回の△28.6から大幅に改善した。4月後半から**人の動きが活発**になり、過去1、2番の忙しさになった飲食店もある。ただ、**材料コストは低下した企業がなく**、73.7% (前回47.6%)が増加した。値上げによる客単価上昇で売上が増加した一方で、消費者の節約志向は強まっている。

## 3カ月後の予想

業況予想DIは、前回より「好転」企業が減り、「悪化」企業が増え、前回の4.8から△5.2へ悪化した。今後もさらに食料品などの値上げが予想され、消費者の買い控えが懸念される。**商品単価が上昇し、買上点数が減少し、売上が横ばいの状況が続く**とみられる。

### ■スーパー

1回あたりの買い物の値段を決めて来店する主婦の動きがあり、必需品は高くても仕方なく買うが、「贅沢品やついで買い」が減っている。

### ■自動車販売

諏訪地方の4月の車庫証明件数は798件で、前年同月比58件、6.7%減少した。

### ■飲食店

客単価の安い店は比較的混雑しているが、節約志向の高まりで来店客数は伸び悩む傾向となっている。

### ■書店

地図、旅行ガイドは、海外より国内旅行向けが良く、円安の影響が大きい。CDは低調で、スマイルアップ (旧ジャニーズ) の影響が大きい。

### ■生花店

新年度に入り、祝花の依頼が多く、一般向けは引き続きネット販売が好調に推移した。

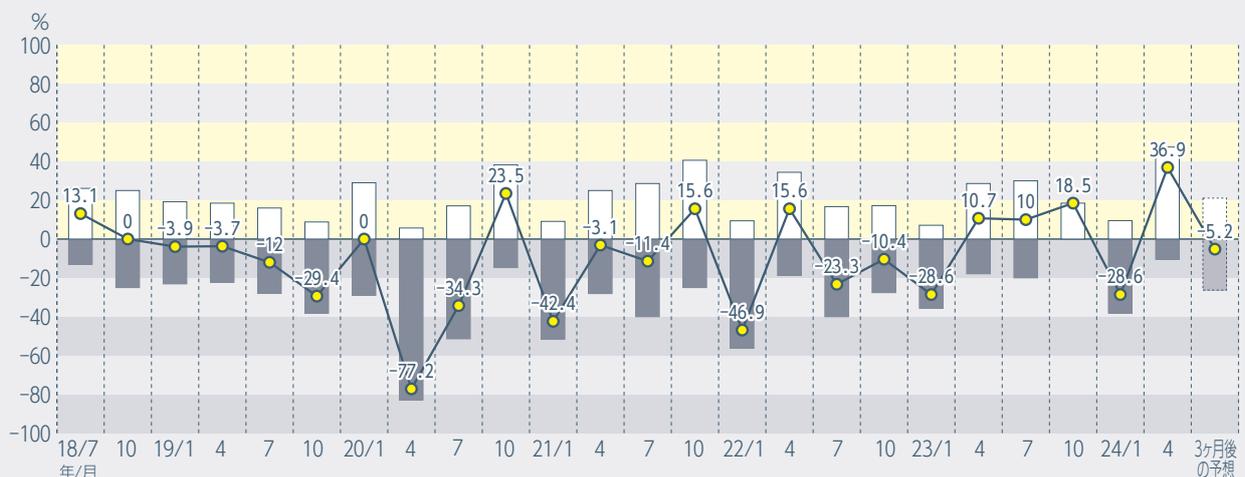
### ■靴店

ブランド物の靴はなかなか売れず、機能や値段を重視する顧客が多くなった。

## 企業のひとこと

- GW前に10～15%単価を上げたため何とかなっているが、さらなる対策が必要と感じている。来店客数は戻っているが、コロナ前に100%回復することはないと思う。接待や宴会で利用してもらうためには、諏訪地域全体の景気が回復してこないといけない (飲食店)。
- コロナ5類以降、初の本格的なGWは、観光地やインター周辺は売上増加となったが、通過点は期待していたほどの売上確保には至らなかった (ガソリンスタンド)。
- 都市部で進むコンビニのスーパー化の流れは、地方では難しい。価格面で大手スーパーに太刀打ちできない (コンビニ)。
- 本はテレビと同様で、「スマホ」に食われている。それも、「お金ではなく時間」を食われていると思う (書店)。

### ●商業全社：「3カ月前」と比した業況判断DIの推移





## 前年同期との比較

物価上昇による消費マインド、能登半島地震等の影響による旅行需要の低下が懸念されていたが、大きな影響はなかった。前回と比べ、業況判断DIは△16.6から23.1へ改善した。4月後半から好天と連休で前年を大きく上回る入り込みとなり、人手不足で予約を断る施設も見られた。

## 3ヵ月後の予想

ハイシーズンの予約状況は好調で、各地でイベントも開催されるが、**原材料の高騰と人手不足の不安**がある。コストの予想は69.2% (前回38.9%) が上昇すると予想し、低下を見込む企業がなかった。**運送業の2024年問題の影響による大型観光バスでの来客減少も懸念**されている。

### ■ 上諏訪温泉

4月の宿泊者数は、諏訪湖温泉旅館組合加盟14施設のうち、前年同月比で増加が11施設、減少が3施設で、総体の客室稼働率は77% (前年同月は72.1%) だった。インバウンドは3,848人受け入れており、全体の12.8%を占める。花火イベントも成功した。

### ■ 下諏訪温泉

コスト増や人手不足の中で、近隣の飲食店と提携したプランが好評だった。

### ■ 蓼科・白樺湖・富士見高原

蓼科湖周辺は桜が咲く月の後半から観光客増加し、天候に恵まれたGW中は蓼科BASE内のテナントや周辺の飲食店は、昼食時に行列が発生するほど混雑した。白樺湖や車山、富士見方面のリゾート、宿泊施設でも来場者数は前年を大きく上回った。

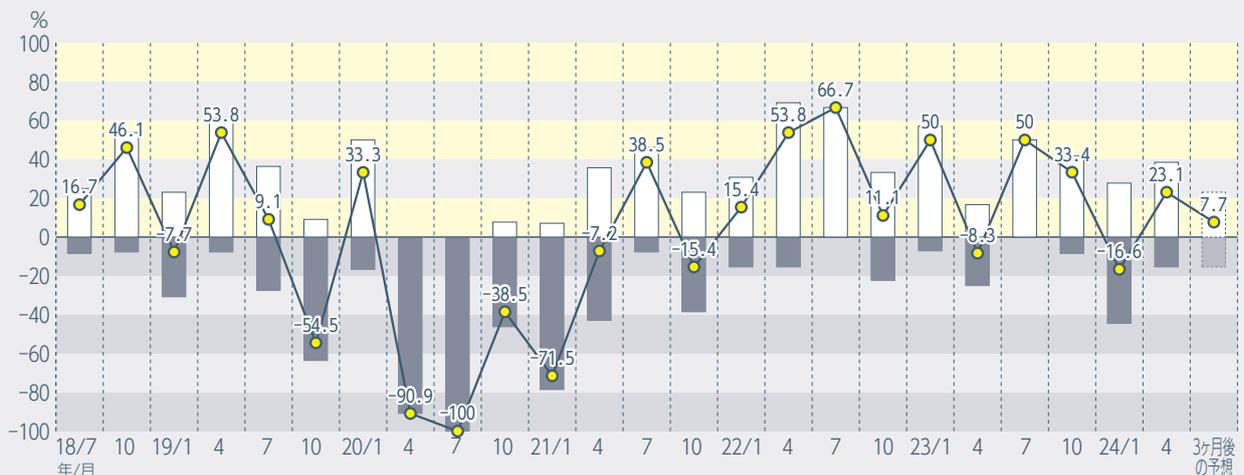
### ■ 諏訪大社

上社・下社合わせた4月の参拝者数は、約77,000人だった。前年同月比約13,000人、20.8%増加した。

## 企業のひとこと

- インバウンドの迎え入れについて議論しているが、諏訪圏域での受け入れ態勢整備が必要。1自治体だけで動いても限界がある (リゾート施設)。
- 現時点では人のやり繰りが何とかできているが、今後需要がさらに増加するようだと、現在の状況では厳しい (旅館)。
- 例年は閑散期となる4月だが、好天と連休で前年を大きく上回る観光客が訪れた。白樺湖周辺も若手事業者が頑張っており、徐々に活気が出てきているように感じる (旅館)。
- 北陸割や新幹線延伸などで北信は活況と聞かすが、当エリアへの恩恵はない。報道にあるようなオーバーツーリズムも怖いが、まずは集客が重要 (旅館)。

### ●観光・サービス業全社：「前年同期」と比べた業況判断DIの推移



# 建設業



## 3ヵ月前との比較

業況判断DIは「好転」が5.0%、「悪化」が15.0%の△10.0となり、前回の△34.8から改善した。ただ、収益性は「好転」企業がなく、「悪化」企業が減って「横ばい」企業が増えた。建設資材の高騰に対し、価格転嫁は5.0%（前回4.3%）が「完了」し、20.0%（前回8.7%）が「転嫁不足」とした。

## 3ヵ月後の予想

業況判断予想DIは、「好転」が5.0%、「悪化」が20.0%の△15.0で、前回の△13.0と同様に推移している。収益性は、前回好転予想企業がなかったが、今回は5%となった。価格転嫁は、「完了」が5%（前回4.3%）、「不足」が10%（前回8.7%）で依然厳しい状況が見込まれる。

## 3月の新設住宅着工戸数

諏訪地方の合計は77戸で、前年同月比25戸増加（48.1%）した。2023年4月～2024年3月の累計着工戸数は928戸で、前年同期比25戸減少（△2.6%）した。長野県全体は3月が810戸で、前年同月比16.5%増加した。2024年度の合計着工数は11,046戸で前年度比7.9%の減少となった。

## 4月の諏訪地方市町村からの受注状況

建築工事1件80百万円、土木・水道工事29件435百万円、その他工事13件111百万円の合計43

件626百万円だった。前年同月比で、1件76百万円増加（13.9%）した。

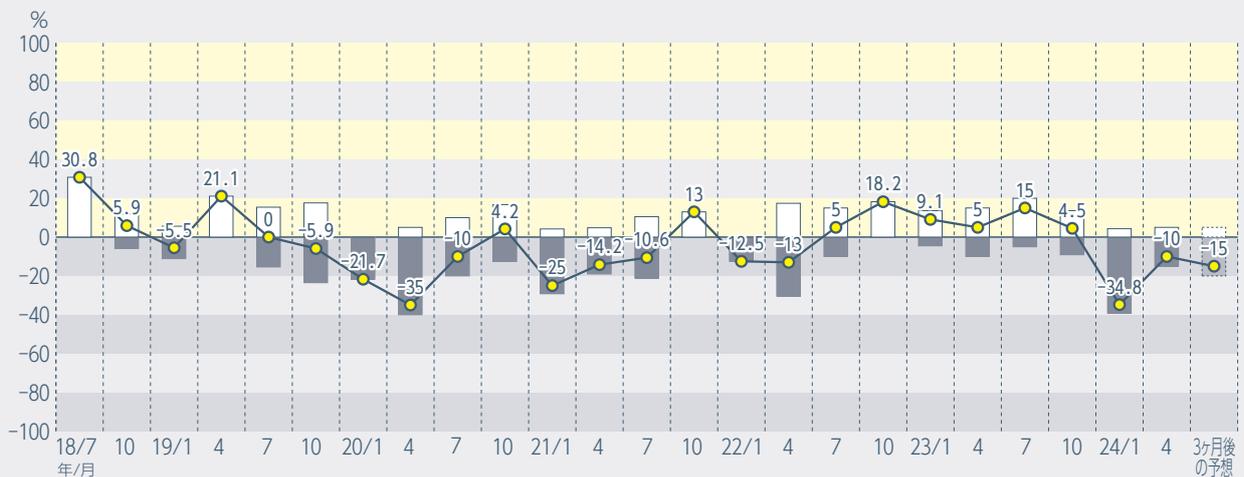
## 4月の地元企業が受注した国県関係の公共工事

合計7件1,169百万円で、前年同月比で件数は2件増加し、契約金額は902百万円増加（337.3%）した。県関係の工事で、諏訪湖流域下水道工事が935百万円と大規模工事であったため、金額が大幅に増加した。生コンが4月から値上がりし、価格転嫁が追い付かない企業が多い。

## 企業のひとこと

- 田舎暮らしの関心から、移住向けの受注割合が高い。商談中の案件も多いが、人手不足でキャパオーバーしている。
- 建築資材の値上がり、労務費のアップの全額を価格転嫁できていない。製造業の不振が心配。諏訪地域は製造業が悪いと、工場や住宅の建設に即響いてくる。
- 民間工事は円安の影響等による原材料費の高騰で、収益面が厳しくなっている。マイナス金利の解除による金利上昇は非常に心配。
- 現場技術者の確保が課題。人手不足で工事を請けられない業者も出てきている。

## 建設業全社：「3ヵ月前」と比した業況判断DIの推移



# 収益性状況

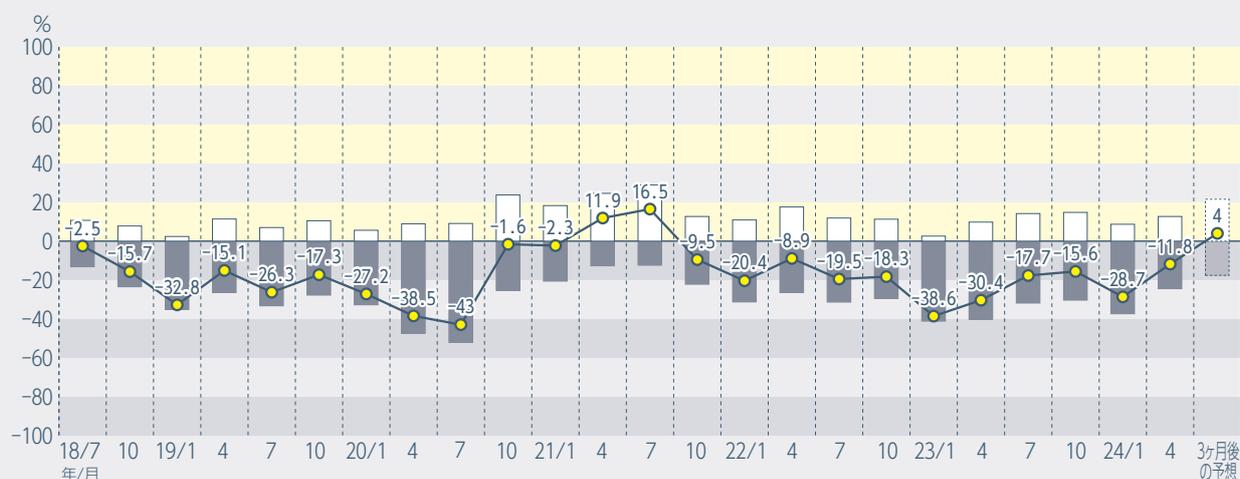
## 3ヵ月前との比較

回答全社の収益性判断DIは「好転」企業16.2%、「悪化」企業22.1%の△5.9で、前回調査時の△31.1から改善した。製造業は△11.8で、依然水面下ながら前回の△28.7から改善した。材料高、エネルギー高、賃金上昇など収益を圧迫する要因が継続している。非製造業は、商業や観光・サービス業がプラス水準に好転したが、建設業は「好転」企業がなく、マイナス水準で推移している。

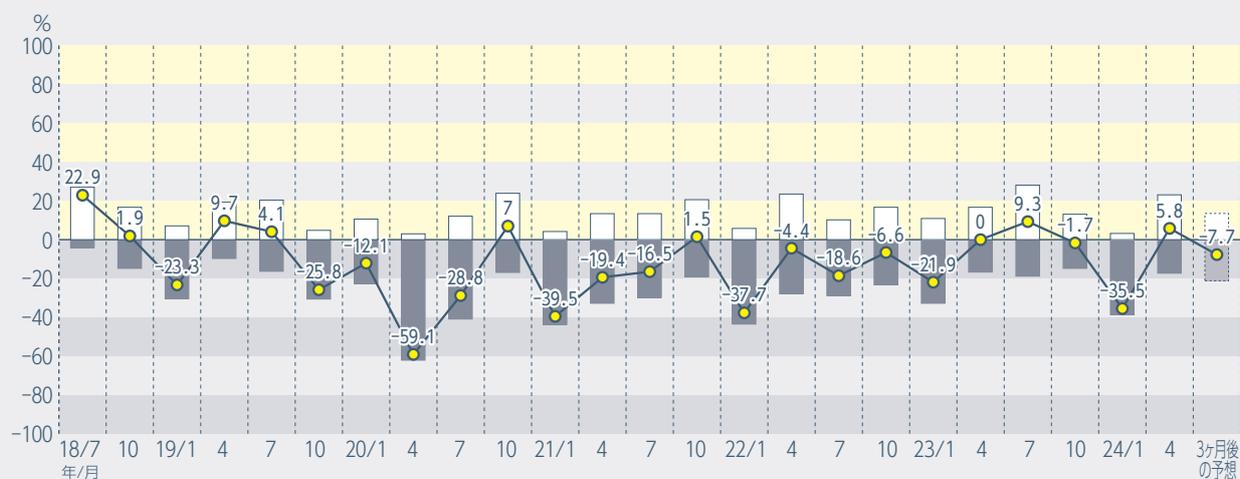
## 3ヵ月後の予想

回答全社の収益性予想DIは、0.0で、前回の△1.1からやや改善した。製造業は4.0で前回の4.3とほぼ同様に推移した。非製造業は△7.7で前回の△11.3から改善した。先行きは商業が5.3で好転予想の企業が上回るが、建設業は△25.0で、悪化予想の企業が多い。また、トップシーズンに入る観光・サービス業が0.0で、悪化予想の企業が、好転予想の企業と同水準になっている。

●製造業：3ヵ月前と比べた収益性DI



●非製造業：3ヵ月前と比べた収益性DI



## 雇用状況

2024年3月の諏訪地方の有効求人倍率は、前年同月を0.15ポイント下回り、前月を0.07ポイント下回る1.32倍だった。**15カ月連続で前年同月を下回った。**県内は前月比0.02ポイント上昇の1.37倍、全国は前月から0.02ポイント上昇の1.28倍だった。全国の完全失業率は、前月比横ばいの2.6%だった。

諏訪地方は、新規求人数が1,460人で、前年同月比339人減少(△18.8%)し、12カ月連続で前年同月を下回った。一方、新規求職者数は766人で、前

年同月比8人増加(1.1%)した。産業別の前年同月比の新規求人数は、金融・保険・不動産業が181.8%増加し、運輸業・郵便業が△24.6%、卸売業・小売業は△12.9%、飲食店・宿泊業が△52.9%、製造業が△19.4%と減少した。

全国の2023年度平均の有効求人倍率は、前年度比0.02ポイント低下の1.29倍で、3年ぶりに低下した。コロナ禍後の採用増が一巡したほか、**原材料費高騰による収益圧迫などで、製造業や建設業を中心に求人数を控える動き**があった。

## 経営上の課題 (3つまでの複数回答)

経営上の課題として①製造業は売上減少と労働力確保②商業は労働力確保と競争激化③建設業は労働力確保と売上減少④観光・サービス業は労働力確保と人件費だった。

「労働力確保」が依然、全業種の課題の上位に上がる一方で、製造業をはじめ、「売上減少」が主な課題となる企業が増加している。

経営上の課題	合計	製造業	商業	建設業	観光・サービス業
売上減少	77	61	4	9	3
単価の引下げ	12	9	1	1	1
競争激化	34	16	11	6	1
資金繰り	39	25	6	3	5
人件費	48	30	5	6	7
労働力確保	45	45	12	17	9

## 諏訪地方主要経済指標

	実数	前年同期比	
有効求人倍率【3月】ハローワーク諏訪管内	1.32倍	△0.15ポイント	
国県公共工事【4月】 (税抜・地元企業受注分)	件数	7件	2件
	金額	1,169百万円	902百万円
6市町村公共工事受注【4月】 (税抜・業務委託除く)	件数	43件	1件
	金額	626百万円	76百万円
車庫証明件数【4月】(諏訪地方合計)	798件	△6.7%	
新設住宅着工件数【2023年4月～2024年3月(諏訪管内)】	928戸	△2.6%	

# 2024年4月の状況 (企業%) ●材料・電気等コスト ●価格転嫁

## ●材料・電気等コスト

		3ヵ月前と比べて				前年同期と比べて				3ヵ月後の予想			
		回答 企業数	上昇	不変	低下	回答 企業数	上昇	不変	低下	回答 企業数	上昇	不変	低下
全	体	154	49.4	48.7	1.9	154	58.4	39.6	1.9	154	57.1	40.9	1.9
製	造 業	102	41.2	55.9	2.9	102	53.9	43.1	2.9	102	52.9	45.1	2.0
規 模	1～29人	54	50.0	48.1	1.9	54	55.6	44.4	0.0	54	63.0	35.2	1.9
	30～99人	33	30.3	66.7	3.0	33	54.5	39.4	6.1	33	45.5	54.5	0.0
	100人～	15	33.3	60.0	6.7	15	46.7	46.7	6.7	15	33.3	60.0	6.7
分 類	金属製品 製造業	31	32.3	64.5	3.2	31	45.2	54.8	0.0	31	48.4	51.6	0.0
	一般機械 製造業	21	52.4	47.6	0.0	21	61.9	33.3	4.8	21	57.1	42.9	0.0
	電気機械器具 製造業	15	26.7	60.0	13.3	15	60.0	26.7	13.3	15	46.7	46.7	6.7
	輸送用機械 器具製造業	9	44.4	55.6	0.0	9	44.4	55.6	0.0	9	44.4	44.4	11.1
	精密機械器具 製造業	9	33.3	66.7	0.0	9	55.6	44.4	0.0	9	44.4	55.6	0.0
	上記以外	16	62.5	37.5	0	16	62.5	37.5	0	16	75	25	0
非	製 造 業	52	65.4	34.6	0.0	52	67.3	32.7	0.0	52	65.4	32.7	1.9
商	業	19	73.7	26.3	0.0	19	73.7	26.3	0.0	19	63.2	31.6	5.3
建	設 業	20	55.0	45.0	0.0	20	60.0	40.0	0.0	20	65.0	35.0	0.0
観	光・サービス業	13	69.2	30.8	0.0	13	69.2	30.8	0.0	13	69.2	30.8	0.0

## ●価格転嫁

		3ヵ月前と比べて				前年同期と比べて				3ヵ月後の予想			
		回答 企業数	完了	不変	不足	回答 企業数	完了	不変	不足	回答 企業数	完了	不変	不足
全	体	154	11.0	67.5	21.4	154	15.6	63.6	20.8	154	15.6	68.8	15.6
製	造 業	102	6.9	71.6	21.6	102	12.7	65.7	21.6	102	13.7	70.6	15.7
規 模	1～29人	54	9.3	68.5	22.2	54	14.8	66.7	18.5	54	14.8	70.4	14.8
	30～99人	33	6.1	75.8	18.2	33	12.1	63.6	24.2	33	12.1	72.7	15.2
	100人～	15	0.0	73.3	26.7	15	6.7	66.7	26.7	15	13.3	66.7	20.0
分 類	金属製品 製造業	31	3.2	74.2	22.6	31	6.5	71.0	22.6	31	9.7	77.4	12.9
	一般機械 製造業	21	4.8	81.0	14.3	21	14.3	66.7	19.0	21	14.3	71.4	14.3
	電気機械器具 製造業	15	13.3	60.0	26.7	15	26.7	40.0	33.3	15	20.0	46.7	33.3
	輸送用機械 器具製造業	9	0.0	77.8	22.2	9	11.1	66.7	22.2	9	22.2	55.6	22.2
	精密機械器具 製造業	9	0.0	88.9	11.1	9	0.0	88.9	11.1	9	0.0	100.0	0.0
	上記以外	16	18.8	50	31.3	16	18.8	62.5	18.8	16	18.8	68.8	12.5
非	製 造 業	52	19.2	59.6	21.2	52	21.2	59.6	19.2	52	19.2	65.4	15.4
商	業	19	31.6	47.4	21.1	19	26.3	57.9	15.8	19	26.3	57.9	15.8
建	設 業	20	5.0	75.0	20.0	20	10.0	70.0	20.0	20	5.0	85.0	10.0
観	光・サービス業	13	23.1	53.8	23.1	13	30.8	46.2	23.1	13	30.8	46.2	23.1

# 2024年4月の状況 (企業%) ●賃金 ●自社の業況

## ●賃金

		3ヵ月前と比べて				前年同期と比べて				3ヵ月後の予想			
		回答 企業数	上昇	不変	低下	回答 企業数	上昇	不変	低下	回答 企業数	上昇	不変	低下
全	体	154	33.8	64.3	1.9	154	46.8	48.7	4.5	154	32.5	64.3	3.2
製	造 業	102	30.4	68.6	1.0	102	49.0	47.1	3.9	102	33.3	63.7	2.9
規 模	1～29人	54	37.0	61.1	1.9	54	44.4	51.9	3.7	54	27.8	66.7	5.6
	30～99人	33	18.2	81.8	0.0	33	48.5	45.5	6.1	33	39.4	60.6	0.0
	100人～	15	33.3	66.7	0.0	15	66.7	33.3	0.0	15	40.0	60.0	0.0
分 類	金属製品 製造業	31	25.8	74.2	0.0	31	45.2	54.8	0.0	31	22.6	77.4	0.0
	一般機械 製造業	21	42.9	57.1	0.0	21	52.4	42.9	4.8	21	14.3	76.2	9.5
	電気機械器具 製造業	15	20.0	80.0	0.0	15	40.0	53.3	6.7	15	46.7	53.3	0.0
	輸送用機械 器具製造業	9	44.4	55.6	0.0	9	66.7	33.3	0.0	9	55.6	33.3	11.1
	精密機械器具 製造業	9	0.0	88.9	11.1	9	44.4	33.3	22.2	9	55.6	44.4	0.0
	上記以外	16	43.8	56.3	0	16	56.3	43.8	0	16	43.8	56.3	0
非	製 造 業	52	40.4	55.8	3.8	52	42.3	51.9	5.8	52	30.8	65.4	3.8
商	業	19	47.4	52.6	0.0	19	36.8	63.2	0.0	19	42.1	57.9	0.0
建	設 業	20	35.0	65.0	0.0	20	45.0	55.0	0.0	20	20.0	80.0	0.0
観	光・サービス業	13	38.5	46.2	15.4	13	46.2	30.8	23.1	13	30.8	53.8	15.4

## ●自社の業況

		3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
		回答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回答 企業数	好転	横這	悪化	DI
全	体	154	20.8	61.7	17.5	3.3	154	15.6	49.4	35.1	-19.5	154	23.4	59.7	16.9	6.5
製	造 業	102	16.7	63.7	19.6	-2.9	102	13.7	45.1	41.2	-27.5	102	27.5	57.8	14.7	12.8
規 模	1～29人	54	18.5	59.3	22.2	-3.7	54	11.1	51.9	37.0	-25.9	54	27.8	53.7	18.5	9.3
	30～99人	33	18.2	63.6	18.2	0.0	33	15.2	33.3	51.5	-36.3	33	24.2	63.6	12.1	12.1
	100人～	15	6.7	80.0	13.3	-6.6	15	20.0	46.7	33.3	-13.3	15	33.3	60.0	6.7	26.6
分 類	金属製品 製造業	31	6.5	71.0	22.6	-16.1	31	12.9	32.3	54.8	-41.9	31	35.5	48.4	16.1	19.4
	一般機械 製造業	21	9.5	66.7	23.8	-14.3	21	0.0	66.7	33.3	-33.3	21	14.3	61.9	23.8	-9.5
	電気機械器具 製造業	15	6.7	73.3	20.0	-13.3	15	0.0	53.3	46.7	-46.7	15	33.3	53.3	13.3	20.0
	輸送用機械 器具製造業	9	44.4	55.6	0.0	44.4	9	44.4	22.2	33.3	11.1	9	33.3	44.4	22.2	11.1
	精密機械器具 製造業	9	22.2	66.7	11.1	11.1	9	11.1	33.3	55.6	-44.5	9	22.2	77.8	0.0	22.2
	上記以外	16	31.3	43.8	25.0	6.3	16	25.0	56.3	18.8	6.2	16	25.0	68.8	6.3	18.7
非	製 造 業	52	28.8	57.7	13.5	15.3	52	19.2	57.7	23.1	-3.9	52	15.4	63.5	21.2	-5.8
商	業	19	47.4	42.1	10.5	36.9	19	21.1	57.9	21.1	0.0	19	21.1	52.6	26.3	-5.2
建	設 業	20	5.0	80.0	15.0	-10.0	20	5.0	65.0	30.0	-25.0	20	5.0	75.0	20.0	-15.0
観	光・サービス業	13	38.5	46.2	15.4	23.1	13	38.5	46.2	15.4	23.1	13	23.1	61.5	15.4	7.7

# 2024年4月の状況 (企業%) ●収益性 ●労働力 (パート含む)

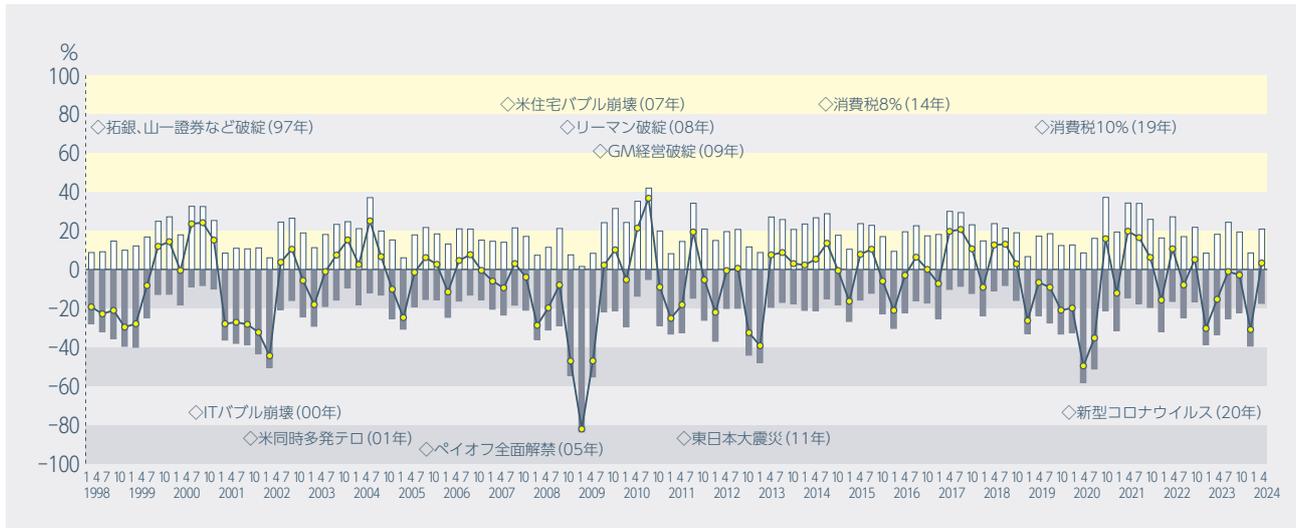
## ●収益性

		3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
		回答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回答 企業数	好転	横這	悪化	DI
全	体	154	16.2	61.7	22.1	-5.9	154	11.7	55.2	33.1	-21.4	154	18.8	62.3	18.8	0.0
製	造	102	12.7	62.7	24.5	-11.8	102	8.8	53.9	37.3	-28.5	102	21.6	60.8	17.6	4.0
規	1~29人	54	11.1	63.0	25.9	-14.8	54	7.4	59.3	33.3	-25.9	54	16.7	63.0	20.4	-3.7
	30~99人	33	15.2	60.6	24.2	-9.0	33	9.1	42.4	48.5	-39.4	33	24.2	57.6	18.2	6.0
	100人~	15	13.3	66.7	20.0	-6.7	15	13.3	60.0	26.7	-13.4	15	33.3	60.0	6.7	26.6
分	金属製品 製造業	31	9.7	54.8	35.5	-25.8	31	6.5	45.2	48.4	-41.9	31	22.6	54.8	22.6	0.0
	一般機械 製造業	21	0.0	76.2	23.8	-23.8	21	4.8	57.1	38.1	-33.3	21	14.3	66.7	19.0	-4.7
	電気機械器具 製造業	15	6.7	66.7	26.7	-20.0	15	0.0	66.7	33.3	-33.3	15	26.7	53.3	20.0	6.7
	輸送用機械 器具製造業	9	33.3	66.7	0.0	33.3	9	22.2	44.4	33.3	-11.1	9	22.2	55.6	22.2	0.0
	精密機械器具 製造業	9	0.0	88.9	11.1	-11.1	9	0.0	55.6	44.4	-44.4	9	11.1	88.9	0.0	11.1
	上記以外	16	31.3	43.8	25.0	6.3	16	18.8	62.5	18.8	0.0	16	31.3	56.3	12.5	18.8
非	製	52	23.1	59.6	17.3	5.8	52	17.3	57.7	25.0	-7.7	52	13.5	65.4	21.2	-7.7
商	業	19	36.8	52.6	10.5	26.3	19	21.1	68.4	10.5	10.6	19	21.1	63.2	15.8	5.3
建	設	20	0.0	75.0	25.0	-25.0	20	0.0	60.0	40.0	-40.0	20	5.0	65.0	30.0	-25.0
観	光・サービス業	13	38.5	46.2	15.4	23.1	13	38.5	38.5	23.1	15.4	13	15.4	69.2	15.4	0.0

## ●労働力 (パート含む)

		3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
		回答 企業数	増加	不変	減少	DI	回答 企業数	増加	不変	減少	DI	回答 企業数	増加	不変	減少	DI
全	体	154	11.7	72.1	16.2	-4.5	154	15.6	61.0	23.4	-7.8	154	11.0	78.6	10.4	0.6
製	造	102	11.8	71.6	16.7	-4.9	102	14.7	60.8	24.5	-9.8	102	8.8	83.3	7.8	1.0
規	1~29人	54	11.1	79.6	9.3	1.8	54	11.1	74.1	14.8	-3.7	54	5.6	87.0	7.4	-1.8
	30~99人	33	9.1	57.6	33.3	-24.2	33	21.2	39.4	39.4	-18.2	33	15.2	75.8	9.1	6.1
	100人~	15	20.0	73.3	6.7	13.3	15	13.3	60.0	26.7	-13.4	15	6.7	86.7	6.7	0.0
分	金属製品 製造業	31	9.7	74.2	16.1	-6.4	31	16.1	58.1	25.8	-9.7	31	6.5	90.3	3.2	3.3
	一般機械 製造業	21	4.8	81.0	14.3	-9.5	21	9.5	71.4	19.0	-9.5	21	9.5	85.7	4.8	4.7
	電気機械器具 製造業	15	6.7	60.0	33.3	-26.6	15	0.0	60.0	40.0	-40.0	15	6.7	66.7	26.7	-20.0
	輸送用機械 器具製造業	9	22.2	66.7	11.1	11.1	9	22.2	55.6	22.2	0.0	9	11.1	77.8	11.1	0.0
	精密機械器具 製造業	9	11.1	55.6	33.3	-22.2	9	11.1	33.3	55.6	-44.5	9	0.0	100.0	0.0	0.0
	上記以外	16	25.0	75.0	0.0	25.0	16	31.3	68.8	0.0	31.3	16	18.8	75.0	6.3	12.5
非	製	52	11.5	73.1	15.4	-3.9	52	17.3	61.5	21.2	-3.9	52	15.4	69.2	15.4	0.0
商	業	19	15.8	68.4	15.8	0.0	19	26.3	52.6	21.1	5.2	19	21.1	63.2	15.8	5.3
建	設	20	5.0	95.0	0.0	5.0	20	10.0	80.0	10.0	0.0	20	10.0	85.0	5.0	5.0
観	光・サービス業	13	15.4	46.2	38.5	-23.1	13	15.4	46.2	38.5	-23.1	13	15.4	53.8	30.8	-15.4

# 回答全社：業況判断DIの推移 (当金庫の調査開始から)



## 調査概要

DI調査:業況などが「好転」と答えた企業割合から「悪化」と答えた企業割合を引いた数値。

- ①調査期間 2024年4月。
- ②調査内容 「2024年4月時点」の実績と、「3ヵ月前」と「前年同期」の業績比較および「3ヵ月後」の予想。
- ③調査方法 DI調査および約130社のヒアリング調査。
- ④DI回答数 154企業。
- ⑤回答率 61.6%

	製造業	商業	建設業	観光・サービス業	合計
依頼数	160	40	30	20	250
回答数	102	19	20	13	154

# 乱高下する円相場の見通し

株式会社小宮コンサルタンツ CEO  
小宮 一慶氏



一時160円まで円安が進みましたが、その後は政府・日銀による(覆面)介入もあり151円台まで円が買われ、その後は円安に動きながらも、介入もにらんだ神経質な展開が続いています。

今回の円安は多くの部分を日米金利差で説明することができます。表をご覧くださいなのですが「TB3ヶ月」という数字は、米国の3ヶ月物の国債金利です。自由金利ですが政策金利(1日だけ銀行間で貸し借りする金利)にほぼ連動して動きます。ちなみに現在の政策金利は5.25～5.50%と歴史的に見ても高い金利です。

	TB 3ヶ月 (%)	米ドル 相場 (円)
2022年3月	0.51	118.51
6月	1.66	133.86
9月	3.22	143.14
12月	4.30	134.93
2023年3月	4.68	133.85
6月	5.17	141.19
9月	5.32	147.67
12月	5.20	144.07
2024年3月	5.23	149.63
(出所)	財務省	日銀

表の一番上にあるのは、2022年3月の数字ですが、この頃は米国の短期金利はまだ0%台でした。インフレ率はすでに8%程度でしたが、FRBは「インフレは一時的」として、コロナで傷んだ経済の立て直しを優先し金利を上昇させなかったのです。その頃のドル円相場は118円台でした。

しかし、インフレがひどくなり、その年の6月には9.1%にまで達しました。FRBも急速に政策金利を上昇させ、それにつれ表のように3ヶ月の金利も急激に上昇したのです。

円の短期金利はずっとマイナスだったので、米金利そのものがほぼ日米金利差と言えます。日米金利差が広がるにしたがって、高い金利のドルが買われ、130円台、140円台と一気に円安が進みました。

一方、2022年暮れから23年初にかけて、米金利は4%台まで上昇し日米金利差が拡大したにもかかわらず、一時130円台まで円相場が戻したのは、シリコンバレーバンクなどの銀行の破綻が懸念されたからです。

ここまで見たように日米金利差が円相場に大きな影響を与えてきたのですが、3月18日、19日の日銀の政策決定会合で、それまでマイナスだった政策金利を0～0.1%程度まで戻す決定が行われました。日本の金融政策を正常化させる第一歩としては評価されたものの、日本の金利は0.1%程度上がったにすぎず、米国が「インフレの粘着性が高い」として政策金利を下げないことから、日米金利差はほとんど縮まらず、円相場も150

円を超える円安が続きました。

そこで注目されたのが4月25日、26日の日銀の政策決定会合だったのです。マイナス金利解除にもかかわらず円安が収まらないので、政策金利をさらに0.1%程度上昇させるのではないかという意見もありました。しかし、現状の緩和策を続けるというのが結論でした。

これを受けて、市場では円が売られ、一時160円をつけました。政府としても過度の円安を見過ごすわけにはいかず、2度のドル売り・円買いの介入を行ったと言われています。

介入で市場の流れは一時的に変わりましたが、もうひとつ市場の流れを変えたのは、米国の雇用統計です。原則毎月第1金曜日に発表になりますが、相場の流れが変わることがあります。今回もそうでした。市場が想定していたほど数字が良くなかったのです。

それにより、粘着性の高いインフレですが、FRBは当面は政策金利を動かさないものの、遠くないうちに政策金利を下げる、つまり、日米金利差は縮まると予想する市場関係者が増え、円高に振れたのです。

その後、再度じりじりと円安に向かい、この原稿を書いている時点では156円台です。

今後も米国で強めの景気指標が出れば、インフレが長引くと懸念から短期金利が下がらずにドル買い、逆に予想より弱い景気指標が出ればドル売りという構図が続くと考えられます。

今般の円安はインバウンド客を増やしたという利点がありますが、日本全体から見れば、それほどのメリットはないどころか、むしろマイナスに働いているとも言えます。

インバウンド客は、3月で308万人と月別では過去最高を記録しましたが、京都をはじめ各観光地ではオーバーツーリズムの問題が起っています。

ホテル代金が跳ね上げり、日本人がまともなホテルに泊まるにはかなりの費用が必要となっています。レストランの値付けも日本人にはかなり高いと感じる値段となっています。

さらに、当社の顧客は中堅中小企業が多いのですが、円安のせいで仕入れ価格がかなり上昇しています。大企業なら、それを転嫁することなどが可能かもしれませんが、中小企業ではなかなか厳しいのが現実です。

日銀は金融正常化、つまり、政策金利を上昇させることで、円安を阻止してほしいと願っています。

**諏訪信用金庫アプリ** ダウンロードはこちら→  
スマートフォンから簡単に**新規口座開設**や**残高照会**、  
**入出金明細の確認**などができます。登録は無料です。



長野県岡谷市郷田二丁目1番8号  
TEL 0266-23-4567  
FAX 0266-24-4055



ホームページ



Instagram

「諏訪の景気動向」についてのご意見、ご要望は  
諏訪信用金庫 総務部へ  
TEL 0266-23-4567